



## Contents

- 1 学長年頭所感
- 2 リオパラリンピックメダリストが講演
- 3 歯学部相互交流プログラム
- 4 複言語・複文化教育センター開設記念シンポジウム
- 5 不動産シンポジウム
- 6 浦安キャンパス公開講座
- 7 明海スポーツ
- 8 第46回けやき祭

## 学長年頭所感

# 明海大学だからこそでできること

2017年酉年の新年を迎えました。明海大学の学生と教職員の皆様、そして同窓会、教育後援会をはじめとして明海大学を支援して下さる多くの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年は、歯学部においてはコアカリキュラムや歯科医師国家試験出題基準の改訂、そして分野別認証評価や臨床実習終了時のOSCEの方向性などが大きな課題となりました。また、大学全体として、高大接続改革システムやディプロマ、カリキュラムそしてアドミッションの3ポリシーが法制化されるなど大学を取りまく環境は依然大きな変化を続け

ております。そして、2018年からは、これらの改革を受けて認証評価機関の評価内容も変更されてくることとなります。

### 教育の質保証と可視化

私たち明海大学は、建学の精神の社会性、創造性、合理性という3つの基軸をしっかりと身につけたうえで、教育の質保証としてのラーニングアウトカムを明示し、学生や保護者の皆様の期待に応えていかなければなりません。

明海大学の教育の質保証と、その可視化には大きく2つの方向性があります。一つは浦安キャンパスにおける就職状況です。本学で学修した

成果を社会に還元するため、企業・社会が求める人材の育成に励んでまいります。昨年は、目標である就職率90%を到達し、留学生においても全国でトップレベルの就職率を誇るなど、保護者の皆様から大変高い満足度を得ることができました。今年も、高い就職率を維持できるよう浦安キャンパスのキャリアサポートセンターを中心にして、教職員が一人ひとりの学生を大切に、そして近くに寄り添いケアをするという基本方針を貫く覚

悟です。もう一つの教育の質保証は、卒業の前に、明海大学で学修すると子どもたちがこのように変化するという、教育力を伸び代で評価するということです。外国語、経済、不動産、ホスピタリティ・ツーリズム学部（以下、HT学部）において、外部試験を利用した成績向上・進級要件を質保証としております。また、HT学部においては、今年4月から新たにグローバル・マネジメントメジャー（GMM）を稼働します。このコースは、これからの日本のHT産業を企画運営していくリーダーの養成という、多くの企業の待望論を実現するために創設したものです。1年間の海外留学を必修化して、すべての専門科目は英語で授業を行うなどグローバル人材の養成に力を注ぎます。もちろん、これまでのホスピタリティ・ツーリズムメジャーは引き続き高度職業人の育成を目指します。

歯学部においても、「新しい時代の歯科医師」養成を深化させた教育課程の実践が2年目になりました。2025年の地域包括ケアシステムに対応した教育課程を具体化しています。歯科麻酔学での全身コントロールを基礎として、高齢者歯科学、障害者歯科学、摂食嚥下・リハビリテーション学を包括的に学修する教育課程を新たに、実際に、老人介護施設での実習を取り入れたカリキュラムが展開されております。

【2面へ続く】



安井利一学長

【1面から続く】

歯科医師国家試験が選抜試験化する中で、多くの知識を備え、臨床応用のできる歯科医師養成に全力を注ぎます。また、高度で優れた臨床の知識と技術を兼ね備えたスーパードクターを目指す大学院「高度口腔臨床科学コース」も、世界に誇る生涯研修

(CEプログラム)と合同での展開を図っており、歯科医師臨床施設として評価の高いPDIとの連携も進めていきます。さらに、体育会・文化会活動、教育研究活動、医療、留学生の育成など、本学がこれまで推進してきた分野にもより一層の力を注ぎます。

浦安キャンパスも坂戸キャンパスも、とにかく教育の成果を可視化すること、研究の成果を可視化すること、そして高度の歯科医療を提供することに専念していく所存です。教職員全員の力を結集するとともに、一人ひとりが素晴らしい年になるよう努力してまいります。

## リオパラリンピックメダリストが講演

11月10日、浦安キャンパスでリオデジャネイロパラリンピック走幅跳(T42クラス)金メダリストのハインリッヒ・ポポフ選手と同競技銀メダリストで400メートルリレー(T42クラス)銅メダリストの山本篤選手による講演会が開催された。

はじめにポポフ選手が「How sports change my life」をテーマに、骨肉種を患い、9歳で大腿を切断してからも続けたスポーツが、自分の人生に与えた影響について講演を行った。ポポフ選手は「ポジティブに生きるか、ネガティブに生きるかは自分次第。自分は大腿を切断してから新たな人生が始まったと思っている。下肢切断者にとって、スポーツをすることはトレーニングになるの

で、気分も生活もポジティブにすることができ、自分自身も前向きになれる」と話した。

続いて、山本選手が「挑戦」をテーマに、17歳のときに事故で大腿を切断してから、陸上競技に会い、パラリンピックでメダルを獲得するまでの数々の挑戦について講演を行った。山本選手は「脚を失ってからは何をすることも常に挑戦。はじめは歩くことでさえ挑戦だったが、競技用義足と出会ってからは、より速く走ること、世界記録や自己ベストへの挑戦に変

わった」と話し、「東京で開催される次のパラリンピックでは、金メダルに挑戦したい」と意気込みを語った。

講演に引き続き行われた質疑応答では、参加者から両選手へ、スポーツをするときに心がけていることやリオデジャネイロパラリンピックでの心境についてなど、さまざまな質問が寄せられた。



ポポフ選手(左)と山本選手(右)

## オリンピック公式通訳者による講演・公開レッスン



オリンピック現場での貴重な体験を披露するミーハン氏

10月29日、浦安キャンパスで外国語学部英米語学科主催「オリンピック公式通訳者による公演・公開レッスン」が行われ、本学の在学生を始め、九州・沖縄など、全国から多くの一般参加があった。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、通訳者がどのように活躍し、振舞うべきかについて学ぶことを目的に行われ、講師として、北京・ロンドン、ソチオリンピックの公式通訳者を務め、国際会議や国

内外の訴訟・裁判、歴代総理大臣、各国大統領・大臣の通訳者としても活躍する右田アンドリュー・ミーハン氏を招聘した。

講演では、オリンピックにおける通訳の大変さや楽しさ、事前準備、通訳以外の時間の過ごし方などについて話し、現場でなければ知りえない貴重な話に、どの参加者も終始真剣なまなざしで聴講していた。講演の後には、オリンピックのメダル獲得記者会見を想定した公開レッスンが行われ、6人の参加者が実際に通訳を体験した。

## 歯学部相互 交流プログラム

# 北京大学口腔医学院の研修生が来学

歯学部では国際未来社会で活躍し得る歯科医師を育成するため、海外協定校との相互交流に力を入れている。なかでも交換研修プログラムは大きな特色のひとつ。在学中に諸外国の歯科医学の現状を学ぶことができる海外研修制度を設けるとともに、研修に参加した学生が海外から研修生を迎え入れることで、継続的かつ相互的な交流が実現できるプログラムとなっている。11月9日から13日にかけては中国の北京大学口腔医学院から研修生10人とインストラクター2人が、20日から23日にかけてはイタリアのシエナ大学から研修生2人とインストラクター1人が来学した。

11日に坂戸キャンパスを訪れた北京大学口腔医学院の研修生らは、本学の国際交流の歴史や教育・研究等に関する特別講義を受講した後、付属病院や学内の施設見学を行い、日

本の歯科医療技術の最新事情を学んだ。昼には教職員らによる歓迎パーティーが催され、和やかな雰囲気できず談する姿が見られた。研修生らの世話役は、今年の8月に北京大学口腔医学院での海外研修に参加した本学在学学生が務め、互いの国の歯科事情について情報交換するなど、学生



本学の優れた臨床技術に高い関心を寄せる研修生

間の交流も活発に行われた。研修生からは、「日本の最先端の歯科医療に触れ、視野が広がった」「技術向上に役立つことを多く学び、中国に持ち帰ることができた」「日本の仲間とともに過ごしたことで、日本人と日本の文化がますます好きになった」といった声が聞かれた。今後もそれぞれの国・大学の歯科医療の強みを共有し、さらなる発展につながることを期待したい。

## 歯学部 公開講座

# 歯周病患者における糖尿病患者の重要性

坂戸キャンパスでは、主に健康や医療を題材にした公開講座を毎年開催している。今年度は、10月22日に東京医科大学教授の小田原雅氏が

「歯周病患者における糖尿病患者の重要性」をテーマに講演し、会場には市民ら約120人が詰めかけて熱心に耳を傾けた。

小田原氏は、歯周病から糖尿病になるメカニズムについて、あるいは糖尿病が引き起こすさまざまな病気について、それらの症状の説明を交えながら、一つひとつ丁寧に解説した。

講演の最後に行われた質疑応答では、糖尿病の治療薬について、近年、患者とのコミュニケーション能力が不十分な医師が増えてきていることへの不安についてなど、切実な問題を含めた質問があり、小田原氏の丁寧な回答に、高い関心が集まった。来場者からは「大変参考になった。糖尿病にならないために、今日から毎日30分以上歩くようにする」「糖尿病予防のため、これからは食物繊維を多く摂り、野菜から先に食べ始めるよう心掛けたい」といった感想が聞かれ、大好評のうちに終了した。



講演する東京医科大学の小田原氏

複言語・複文化教育センター開設記念シンポジウム

「複言語・複文化主義から英語教育の在り方を再考する」

10月29日、浦安キャンパスで複言語・複文化教育センター(以下、P&P教育センター)主催のシンポジウム「複言語・複文化主義から英語教育の在り方を再考する」が開催された。同センターは、母語と複数の外国語を効果的に運用し、文化的な背景も身につけた真のグローバル精神を持った人間を育成するため、2015年10月に開設された。今回のシンポジウムは、センター開設を記念した第二弾で、全国各地から約200人の参加者が訪れた。

はじめに大津由紀雄P&P教育センター長(副学長、外国語学部長)による同センターの紹介があり、続いて、立教大学名誉教授の鳥飼玖美子氏、和歌山大学教授の江利川春雄氏、東京大学教授の斎藤兆史氏による講演と大津P&P教育センター長による現在の英語教育の問題点や複言語・複文化主義から考える外国語学習の可

能性等について講演が行われた。その後行われた質疑応答と全体討論では、参加者からのさまざまな質問に登壇者らが答えるなど活発に意見が交わされた。シンポジウムを主催した大津P&P教育センター長は、「全国各地からのたくさんの参加者の前

で、歪められた形で普及が進みつつある日本の複言語・複文化主義やそれに端を発する英語教育政策の問題点を明らかにすることができた。さらに、明海大学がP&P教育センターを開設した意義についても広く知ってもらえた」と語った。



講演に耳を傾ける参加者たち

V5が特別防犯功労団体として表彰

浦安市学生防犯委員会V5が関東防犯連絡協議会から「特別防犯功労団体」として表彰され、10月18日に浦安市役所で行われた表彰状授与式で、会長を務める田口直也さん(英米語学科2年)が松崎秀樹浦安市長から表彰状を授与された。

V5は2004年の活動開始以降、浦安市内の自転車盗難件数減少に向けて、二重施錠の呼びかけや啓蒙物資の配布等を行っており、これらの活動が認められて今回の表彰となった。

これまで、浦安市や千葉県で表彰

されたことはあったが、関東規模での表彰は初めてのこと。

表彰式では、松崎市長から「皆さんのおかげで自転車盗難件数が大幅に減少しており、今回の受賞と併せて、お礼とお祝いを申し上げます」とお祝いの言葉があり、V5を構成する浦安市内4高等学校3大学の各校代表生徒・学生が今回の受賞に対する感想とお礼の言葉を述べた。

本学代表として出席した田口さんは「自分たちの力だけではなく、今まで活動してきた先輩方のおかげもあって受賞できた。盗難件数の減少は自分たちの活動を市民の方々に理解してもらえているということだと思うので、これからは浦安市のために頑張って活動したい」と話した。



松崎浦安市長(中央)と受賞を喜ぶV5の各校代表者たち

不動産学  
シンポジウム

# 2020年新たな住宅流通と価格形成

11月30日、すまい・るホール(住宅金融支援機構本店)において、不動産学部主催(共催:一般財団法人日本不動産研究所)による不動産学シンポジウム「2020年新たな住宅流通と価格形成」が開催された。

今回のシンポジウムは、時間に焦点を当てて、賃貸用共同住宅の賃料が今後どのように推移するか、経年

減価に対してリフォームによる賃料の底上げ効果はどの程度見込めるのか、といった専門性の高い内容がテーマとなっていることもあり、不動産業界から多くの参加があった。

はじめに、国土交通省住宅局住宅政策課長の和田康紀氏が「既存住宅流通・リフォーム促進等施策の方向性」、UR都市機構東日本賃貸住宅本

部ストック事業推進部長の間瀬昭一氏が「これからの団地再生事業」をテーマに講演した。続いて、パネルディスカッションの導入として、一般財団法人日本不動産研究所の金東煥氏、曹雲珍氏、本学不動産学部の周藤利一教授、前川俊一教授、小松広明准教授が、それぞれ専門としている分野の研究報告を行った。

その後、中城康彦不動産学部長を加えてパネルディスカッションが開かれ、不動産業界にとっても大きな節目となる2020年を見据えた住宅流通の新しい形と、それに伴う価格形成の変化について議論が交わされた。

日本で唯一、不動産学を総合的に学ぶことができる本学部では、それぞれの分野における高い専門性と幅広い知識を活かして、今後もさまざまなシンポジウムを開催していく。



不動産業界の専門家が集う会場

基礎から学ぶ  
マイホーム取得講座

## 安心して夢をかなえる勉強会

10月20日、すまい・るホール(住宅金融支援機構本店)において、不動産学部主催による不動産学シンポジウム「基礎から学ぶマイホーム取得講座『安心して夢をかなえる勉強会』」が開催された。

はじめに、中城康彦不動産学部長から「マイホーム取得は、めったに経験しない高額な取引であるにもかかわらず、知識が乏しく適正な判断ができない恐れがあります。そこで後悔なく済むように大学と公的機関が協力し、夢を叶えるための勉強会を実施します」とあいさつがあった。

その後、独立行政法人住宅金融支援機構の峰村英二氏から「住宅ローンの仕組みと留意点」、一般財団法人

不動産適正取引推進機構調査研究部主任研究員の中戸康文氏から「住宅トラブルの核心」、本学不動産学部の周藤利一教授から「住宅取得の仕組みと実務」、前島彩子講師から「マイ

ホーム取得のための土地建物の知識」をテーマとした講座が行われた。マイホーム取得は人生設計における一大イベントであるうえに、簡単にはやり直しが効かないため、身近な問題を専門家がわかりやすく解説する講座に、参加者からは好評の声が聞かれた。



参加者からの質問に応える登壇者ら

浦安キャンパス  
公開講座

# ことばの力であなたは変わる

11月5日、浦安キャンパスで2016年度公開講座「ことばの力であなたは変わる」が開催され、500人収容の大講義室が満席となるほど多くの来場者が詰めかけた。

『ふたりっ子』をはじめ『セカンドバージン』や『家売るオンナ』など、

オリジナル作品のテレビドラマ脚本を手がけた脚本家の大石静氏と千葉大学大学院人文社会科学研究科の小林正弥教授が講師として招かれ、大石氏は「脚本家という仕事」、小林氏は「対話力で『ことば』を生かす」と題した講演を行った。

大石氏の講演では、テレビドラマのセリフにおける語尾で視聴者に与える印象が大きく変わる、という細部へのこだわりが語られた。さらに役者抜擢のエピソードや昨今のテレビドラマ制作事情など、普段は聞くことのできない裏話が大石氏の軽快な語り口で披露され会場は大いに盛り上がった。また、小林氏からは、グローバル化が進んでいる現代に求められる「対話」の重要性が解説された。

講演後は両講演者に加え、本学複言語・複文化教育センター長の大津由紀雄教授をモデレーターとして交え、「ことばの力を育む」をテーマとしたパネルディスカッションが行われ、ことばをさまざまな切り口から論じつつ活発な意見交換が行われた。



パネルディスカッションの様子

浦安キャンパス

## 第29回明海祭

11月4日から6日の3日間にわたり、「Chance!」をテーマに第29回明海祭が開催された。足を運んだ来場者に、少しでも「Chance!」を掴んでもらいたいという想いを形にした3日間となった。

明海祭は、ダンスサークル「Rabbit」の発表とともにオープニングセレモニーからスタートし、学生による模擬店をはじめ、人気声優の伊波杏樹さんによるトークショー、パフォーマンスグループ「lol」とダンスボーカルグループ「Beat Buddy Boi」によるコンサート、人気お笑い芸人「トレンディエンジェル」らによるライブなど、さまざまなイベントが開催された。中でも毎年人気を集めているフリーマーケットや来場者参加型

の抽選会では、子どもからお年寄りまで幅広い世代の方が楽しむ姿が見られた。

また、屋外ステージではジャズオーケストラ部や軽音楽部による演奏など学生によるプログラムに加え、毎年恒例となった地域の方々に参加する太極拳同好会やメイカイクラブ会員によるパフォーマンスもあ

り、会場を大いに沸かせた。

学園祭実行委員長の成富頼幸さん（経済学科3年）は、「実行委員一同、長きにわたる準備から当日まで、全力でやり遂げることができた。また、当日は多くの方に足を運んでいただくことができ、感謝の気持ちでいっぱいだ」と話した。



オープニングセレモニーを盛り上げたダンスサークルによる発表

# 明海スポーツ

MEIKAI  
SPORTS

## 強豪校相手に健闘！

体育会公式ホームページ <http://meikai-sports.jp>

### 体育会ヨット部

## 全日本学生ヨット選手権大会で6位入賞！

11月2日から6日にかけて、愛知県の蒲郡沖で第81回全日本学生ヨット選手権大会（以下、全日本）が開催され、強豪校が一堂に会する全日本の舞台上、本学体育会ヨット部は総合6位（470級6位、スナイブ級8位）で見事入賞を果たした。

大会は初日から強風が吹き荒れ、艇体やマストトラブルを起こす大学が続出。470級・スナイブ級に出場した69艇のうち、1レース目でフィニッシュできたのは約半数、2レース目ではスナイブ級はわずか7艇のみという波乱の幕開けとなった。2日目以降も強風は続き、ハードコンディションの中、4日間にわたり全11レースが行われた。本学も初日のレースでマストが折れ苦戦を強いられたものの、立て直しを図り、2日目以

降は全ての艇が反則なくフィニッシュした。國府田由隆監督は、「これまで経験したことがないほどの強風で苦しい大会だった。昨年の総合8位を上回る結果を残せたものの、上位

にくらいつくことができず悔しい。強風にも耐えられる体力トレーニングを積み、来年の大会に向けて力をつけていきたい」と話した。

体育会ヨット部は近年強豪校とも対等に渡り合える実力がついてきており、厳しさを増す勝負の中でさらに良い成績を残すことを期待したい。



体育会ヨット部

## HT学部の学生が秘書技能検定1級に合格！

秘書業務に関する考え方・知識・技術などを問う文部科学省後援の検定試験「秘書技能検定」の1級に、ホスピタリティ・ツーリズム（HT）学部の村井葉月さん（3年）が合格した。秘書技能検定は、文書作成・ファイリング・スケジュール管理・ビジネスマナー・一般知識など、幅広い能力が問われる資格試験。社会的な知名度や企業からの評価も高いことから、毎年多くの方が受験している。

村井さんは、「目標のひとつとしていた資格を取得できて嬉しいです。大学入学後に準1級を取得しましたが、さらなるスキルアップを目指し、今回1級に挑戦しました。将来はホテル業界に就職したいと考えており、身につけた言葉遣いや立ち居振る舞いなどのコミュニケーションスキルは、お客様や上司と接する上で必ず活かせると思います」と語った。

合格証を手にする村井さん



坂戸キャンパス

第46回けやき祭

10月8日、9日の2日間、坂戸キャンパスで学園祭「けやき祭」が開催された。本学創立とともに歩み、今年で46回目を迎えた「けやき祭」は、『やる気 元気 けやき』をテーマに、多彩なイベントを催した。学生による趣向を凝らした模擬店やバスケットボール大会、人気お笑い芸人「ジョイマン」「デニス」によるライブなどが行われ、多くの来場者で賑わった。な

かでも、毎年好評のクリニカルリサーチ部による「骨密度測定」には多くの地域住民が参加し、学生との交流を楽しむ姿が見られた。また、当日はオープンキャンパスも同時開催され、入試相談をした後に学園祭を楽しむ受験生の姿もあった。

けやき祭実行委員長の下山智成さん（歯学科4年）は、「将来、歯科医師として働く上で、さまざまな人と触れ合い、異なった考え方を吸収することは大切なこと。今回の学園祭を通して多くの人と触れ合うことが

でき、貴重な経験となった」と話した。



地域住民との交流を深めるクリニカルリサーチ部の学生

白菊会懇談会

10月8日、坂戸キャンパスで白菊会懇談会が行われ、会員および本学



オーケストラ部の演奏に耳を傾ける会員ら

教職員らが参加した。白菊会とは、医学と歯学の発展のために、死後、自分の遺体を解剖学の教材として提供することを約束した篤志献体の組織で、本学創立以来会員数は年々増え続け、現在は1,500人を超える会員を擁している。

はじめに、過去の献体諸霊に黙祷を捧げた後、安井利一学長および中嶋裕歯学部長が会員の協力に感謝の言葉を述べた。続いて、高齢者歯科学分野の竹島浩教授が「口腔がん」をテーマに

特別講演を行い、フレイルと呼ばれる高齢者の虚弱サイクルの現状から、がんそのものの歴史や発生のメカニズム、口腔がんの種類と特徴、診断や治療の方法について、詳しい説明がなされた。その後、毎年恒例となっているオーケストラ部による生演奏が披露されると、美しい音色に聴き入る会員の姿が見られ、会場は和やかな雰囲気にも包まれた。最後に、解剖学分野の天野修教授によるあいさつがあり、2016年度白菊会懇談会は閉会した。

2017年度入試日程

詳細は必ず入学試験要項をご確認ください。

浦安キャンパス 外国語学部/経済学部/不動産学部/ホスピタリティ・ツーリズム学部

入試区分	出願期間	試験日
一般入学試験	1/6(金)~1/19(木) 【消印有効】	1/28(土)、1/29(日) ※試験日自由選択制 ※郡山、新潟、静岡の各会場でも実施 ※GMMは2/8(水)に2次試験有り
大学入試センター試験利用入学試験		1/14(土)、1/15(日) 大学入試センター試験 ※本学での個別学力審査無し ※GMMは2/8(水)に2次試験有り

■お問い合わせ 浦安キャンパス入試事務室 TEL 047-355-5116 ※GMM:ホスピタリティ・ツーリズム学部グローバル・マネジメント メジャー

坂戸キャンパス 歯学部

入試区分	出願期間	試験日
一般入学試験	1/10(火)~1/18(水) 【郵送必着】	1/23(月)
一般入学試験(センタープラス方式)		
大学入試センター試験利用入学試験		1/14(土)、1/15(日) 大学入試センター試験 1/23(月) 面接試験 ※仙台、福岡の各会場でも実施

■お問い合わせ 歯学部入試事務室 TEL 049-279-2852